

TM-1192

FGCS '92 デモに対する感想

村沢 好信

July, 1992

© 1992, ICOT

ICOT

Mita Kokusai Bldg. 21F
4-28 Mita 1-Chome
Minato-ku Tokyo 108 Japan

(03)3456-3191~5
Telex ICOT J32964

Institute for New Generation Computer Technology

FGCS'92 デモに対する感想

1. 一般デモ見学者のデモに対する感想

- アンケート集計結果報告 (資料 1)

2. デモ実施者から見たデモの感想

- FGCS'92 デモに対する感想 (ICOT 分) (資料 2)
- FGCS'92 デモに対する感想 (再委託分) (資料 3)

1. 集計状況

アンケート回収数:157 通

(回答者内訳) 日本人:151 外国人:6

2. 集計結果

(a) 印象に残ったテーマ

別 紙

(b) 感想

(全体の感想)

- 会場全体のムードが大変良い。
- 全般的に難しい。
- 個々のデモがあまりにも専門的であり、今いち実感がわからない。現在あるコンピュータとの比較を行いながら、その成果や問題点について、総括的に概観できるようなデモがほしかった。
- 時間が少なくて僅かしか見ることができませんでした。全体的に大変面白いと感じました。
- 並列推論の言葉自体分かりにくい。

(説明の言葉)

- co-LODEX のデモンストレーションが、わかりやすい上手な英語で良かった。
- 見た限り、来場者の大半は、日本人であった。もっと日本語のスピーチを増やすべきでは？
- やはり英語がネエ。
- 無理に英語を使う必要はない。日本人にもわからないし、外国人にもわからない。
- 英語のところが聞けなくて残念だった。
- 私は、「HELIC-II」のプレゼンテーションを是非、聞きたかったのに、5回も戻ってきたが、英語で説明されなかった。理解できなくてがっかりするとともに、これは、日本人の会議であると思った。

(デモ環境)

- 一つのブースが狭い。また、全体的にとなりの音がうるさい。
- 声が小さい。周囲のデモがうるさい。
- あまりにうるさいので、質問と議論ができない。

(デモ時間帯)

- 良いデモであるが、時間帯が、しばしば、Invited Paper の時間帯とぶつかっている。
- ブース毎に、デモ開始／終了予定時刻表を出してくれたら、見る側にとって便利だ。
- 最初に渡されたパンフレットどりのスケジュールで、デモをしてくれることを望みます。
- 時間が合わず、9A(MENDELS ZONE) がきけないで残念でした。

(デモ内容)

- 例題が固すぎる。(例: バブル経済崩壊のシュミレーションなど)
- MGTP の Abuduction がすばらしかった。デモンストレータは、給料を倍にすべきだ。
- 多CPU ボードの現物サンプル程度はかざってほしかった。
- レジメがわかりにくい。
- レジメ等を用意してほしかった。
- いろいろなブースで同じようなデモをやっているように見えました。(もちろん、手法は、異なるのですが。)
- 良いが、3年以内にアプリケーションを見せる別のデモをすべきだ。

(その他)

- 空間構造に関する推論や並列処理は、第五世代に関係ないのか。
- ICOT の研究者の方、ご苦労様でした。これからも研究に励んで下さい。

印象に残ったテーマ

ブース 番号	デモ 番号	デモテーマ	◎	○	順位
1	1	並列推論システム * 並列論理型言語「KL」 * 並列推論マシン・オペレーティングシステム「PIMOS」 * 並列推論マシン「PIM」 * KL 処理系 * 各 PIM モジュールとマルチ PSI	14	20	4
2	2A	モデルに基づくプラント制御用エキスパートシステム	5	20	11
	2B	適応型電子装置診断実験システム	1	11	19
	2C	事例に基づく回路設計支援システム	5	11	16
3	3A	階層再帰並列レイアウト実験システム「Co-HLEX」	1	8	21
	3B	並列セル配置実験システム	1	9	20
	3C	論理アーキテクチャ設計支援システム「RODIN」	7	5	11
4	4	協調型論理設計エキスパートシステム「co-LODEX」	4	6	18
5	5A	並列 LSI 配線プログラム	1	23	17
	5B	並列論理シミュレータ	8	20	9
6	6A	タンパク質の配列解析プログラム (並列反復改善法によるマルチプルアライメント)	8	19	10
	6B	並列自動証明システム「MGTP」	9	8	8
7	7A	並列データベース管理システム「Kappa-P」	5	14	15
	7B	知識表現言語「QUIVOTE」	15	22	3
8	8A	並列法的推論実験システム「HELIC-II」	18	23	1
	8B	モチーフ抽出実験システム	7	15	11
9	9A	並列プログラム開発支援システム「MENDELS ZONE」	14	13	5
	9B	並列制約論理プログラミングシステム「GDCC」	10	13	7
10	10A	立論テキスト生成実験システム「Dulcinea」	6	18	13
	10B	並列協調に基づく自然言語解析実験システム「Laputa」	16	19	2
	10C	文脈構造抽出実験システム	11	19	6

(注) 順位は、◎ の多い順番。なお、◎ の数が同じ場合は、○ の多い順番

FGCS'92デモンストレーションについてのアンケート

※デモ会場出口のアンケートボックスにお入れ下さい。

1. 印象に残ったテーマに丸印を記入して下さい。

(凡例 ◎: 非常に興味深かった)
 ○: 興味深かった)

ブース 番 号	デモ 番号	デ モ テ ー マ	回答欄
1	1	並列推論システム	
2	2 A	モデルに基づくプラント制御用エキスパートシステム	
	2 B	適応型電子装置診断実験システム	
	2 C	事例に基づく回路設計支援システム	
3	3 A	階層再帰並列レイアウト実験システム「Co-HLEX」	
	3 B	並列セル配置実験システム	
	3 C	論理アーキテクチャ設計支援システム「RODIN」	
4	4	協調型論理設計エキスパートシステム「co-LODEX」	
5	5 A	並列LSI配線プログラム	
	5 B	並列論理シミュレータ	
6	6 A	タンパク質の配列解析プログラム (並列反復改善法によるマルチプルアライメント)	
	6 B	並列自動証明システム「MGTP」	
7	7 A	並列データベース管理システム「Kappa-P」	
	7 B	知識表現言語「QUIXOTE」	
8	8 A	並列法的推論実験システム「HELIC-II」	
	8 B	モチーフ抽出実験システム	
9	9 A	並列プログラム開発支援システム「MENDELS ZONE」	
	9 B	並列制約論理プログラミングシステム「GDCC」	
10	10 A	立論テキスト生成実験システム「Dulcinea」	
	10 B	並列協調に基づく自然言語解析実験システム「Laputa」	
	10 C	文脈構造抽出実験システム	

2. その他、感想、お気付きの点がありましたらご記入下さい。

()

よろしければ所属、お名前をお書き下さい。

()

QUESTIONNAIRE : FCCS'92 DEMONSTRATIONS

We are very pleased to receive any comments on FGCS'92 Demonstrations from you.

Please complete the following questionnaire and return to boxes near exit.

1. Please check the following list, according to the symbols below.

(● : superb , ○ : excellent)

Booth No.	Demo No.	Title	
1	1	Parallel Inference System	
2	2A	A Diagnostic and Control Expert System Based on a Plant Model	
	2B	Experimental Adaptive Model-Based Diagnostic System	
	2C	Case-Based Circuit Design Support System	
3	3A	Experimental Parallel Hierarchical Recursive Layout System : <i>Co-HLEX</i>	
	3B	Parallel Cell Placement Experimental System	
	3C	High Level Synthesis System : <i>RODIN</i>	
4	4	A Cooperative Logic Design Expert System : <i>co-LODEX</i>	
5	5A	Parallel LSI Router	
	5B	Parallel Logic Simulator	
6	6A	Protein Sequence Analysis Program — Multiple Sequence Alignment by Parallel Iterative Aligner —	
	6B	Model Generation Theorem Prover : <i>MGTP</i>	
7	7A	Parallel Database Management System : <i>Kappa-P</i>	
	7B	Knowledge Representation Language : <i>QUIXOTE</i>	
8	8A	A Parallel Legal Reasoning System : <i>HELIC-II</i>	
	8B	Experimental Motif Extraction System	
9	9A	A Concurrent Program Development System : <i>MENDELS ZONE</i>	
	9B	Parallel Constraint Logic Programming System : <i>GDCC</i>	
10	10A	Experimental System for Argument Text Generation : <i>Dulcinea</i>	
	10B	A Parallel Cooperative Natural Language Processing System : <i>Laputa</i>	
	10C	An Experimental Discourse Structure Analyzer	

2. Please write down your impression, or any comments.

Please write down your name and Company/University. (Optional)

FGCS'92 デモに対する感想 (ICOT 分)

1. デモ全般について

- (a) 全般として従来の FGCS におけるものよりもはるかに余裕を持って良く準備され、デモ内容の技術や具体的なソフトウェアなどはもちろん、デモとしてのプレゼンテーションなどの完成度も高かったと思います。
- (b) 感想として「impressive である」という声をもっとも多く聞きました。これは、主として展示された応用ソフトウェアの種類の多さによるものだったようです。一方、質的には、もっと努力を集中した、並列推論マシンならではの応用というものが欲しかった、という声もいくつか聞かれました。
- (c) デモは期待していた以上に好評だったと思います。お客さんの数は多かったし、かなり熱心に聞いていただいたような気がします。
- (d) お客さんは日本人が多かったので、英語と日本語のデモの比率は 5 : 5 くらいにしたところが多かったようです。デモ開始のときに、日本人しかないときは日本語でスタートするわけですが、そのため、「後ろから覗いてみると、日本語のデモしかやっていない」と不満を述べられた外国の方もいらっしゃいました。
- (e) どのブースも OHP スライドはカラーを使って、いろいろ工夫している点が、非常に良かったと思います。
- (f) やむをえないことではありますが、どのデモも担当者によって出来ばえにばらつきがあります。
- (g) デモ全体について考えられることですが、セッションと重なる時間は聴衆が少なく、昼食時間、休憩時間では全体を見ることが出来ないこともあり、出来ればプレ・コンファレンスのような形でデモのみの日が会期中にあれば、見に来る方も楽ではなかったかと思います。
- (h) また、各ブース内の複数テーマの担当時間があまり聴衆には知られていないようで、何等かの方法で広報を計るべきであったかとも思いました。
- (i) デモ時間が長かったせいか途中で席を立つ人が目についた。
- (j) 最初からみたいので、次のデモの開始時刻を教えてくださいという人が数名いた。(デモ・スケジュールを見ていない人が多かった。)
- (k) デモブースの構成に関して言えば、やや通路が狭く、特に人気のあったブースの前はかなり通り難い状況になっていました。各ブースの奥行がもう少し少なくてもよかったのではないかと思います。

- (l) 各デモの説明がマイクを通じて交錯していたために聴衆に聞き取り難かった場合があった。
- (m) デモ会場は正直にいってももう少し広い場所のほうが良かったのではないかと思う。隣のブースの発表者のスピーカーの音量が大きい場合、聞き取りにくくなることがあった。
- (n) 一人の外国人を優先して多くの日本人に十分な説明ができないということもあったのではないか(これを口実に日本語でしていたブースも見掛けた)。
- (o) デモ内容については、結構、原稿を暗記してうまくデモを熟していたと思う。惜しむらくは聴衆を見ながら言い含めるようにできればもっと内容が分かってもらえたのではないか。
- (p) 英語でのデモの際に、原稿を手を持って話しているところがあり、これはデモに関してはとるべき方法ではないと感じました。
- (q) デモ要員に個人に対応する熱意が欠けていたのではないか。デモを済ませばよいというのではなく担当時間外でも積極的に対応すべきである。
- (r) 一方、デモを軽視しがちで個人対応ばかりに熱心なデモ要員も若干名いてこちらはこちらで問題であった。バランスをとって聴衆にアピールする姿勢の周知徹底が望まれる。
- (s) 日本語対応でデモを行うか英語対応でデモを行うかにとまどった。(例えば、1人の外国人と10人の日本人の場合)
- (t) FGCS'88と比べると、お客の波(コーヒープレイクに多くデモ会場に集まる)が少なく、平均的にお客が集まっていた。
- (u) マイクを手で持たなくて済んだのは、とても良い。
- (v) 全体的にデモ会場の人が入りが少なかった。その分あまり緊張しなくて済んだが、張り合いも少なかった。
- (w) スピーカの声がオペレータに聞こえず、連携に困難を感じた。オペレータ用のヘッドフォンがあると良いのでは。
- (x) 本会場での発表と連動するデモも多かったように感じられた。それに対応してデモだけを行っている時間をもっと増やすなりして、デモによる発表の比重を高めると参加者の理解がもっと得られたように思う。
→ デモによっては発表者の判断で個人的デモも大規模デモも随時行っていた。
- (y) 一般的にみて、お客の数が少なかった。デモの時間をもう少し限定した方が良かったかもしれない。

→ 5 日間の積算で考えるべきで、張り合いはなかったかもしれないが、全体 としては問題ないだろう。時間を限定するという趣旨がよくわからない。

2. デモ実施状況、感想等 (研究室別)

(1,2 研関係)

(a) PIM ブース

- PIM ブースで見せるべき内容を一般の人にも分かり易くアピールするのは大変難しい。ショータイムを設けたのは正解だった。パネルの前にも説明員を置くべきかどうかは議論の分かれる所。PIM ブースから Computer Room 見学へ続くような流れを作るべきだった。受けた質問は、個々の細かいことより、第五世代プロジェクト全般、マシン開発全体等に関するものが多かった。
- 休憩時間に設けたショータイムには人もそこそこ集まり、質問も結構出ていた。興味を持って聞いてもらえたようだ。タイミング、長さ、内容的に効率が良かったと思う。
- TR, TM は、途中 computer room の方から融通しなくてはならない程さばけた。無料で自由に持って行くという形式と TR, TM の選定が良かったのであろう。「KL1 マニュアル」的な資料の需要が高かったのだが用意していなかった。
- PIM ブースに来るお客さんは専門家でない人が多く、パネルの内容はちょうど合っていたようだ。特に説明員を置かずただパネルを見せるだけであったが、質問をしたがっているお客さんは潜在的にはかなり居るような印象であった。
- どのブースでどのマシンが動いているのかという質問を良く受けた。この情報は もっとはっきりと伝えるべきであった。
- PIM/c, PIM/k の実演は 2 件ずつ行われたが、もっと案内しても良かったかと思う (他のブースでは PIM/m, Multi-PSI, PIM/p が動いているとはっきり案内した上で)。

(b) ANNEX Computer Room

- やはり Computer Room に来たお客さんには専門家が多かったようで、30 分から 1 時間ほどかけて全 PIM を見て回るというパターン

が多く、十分議論をし、かなり満足しているようであった。残念なのは人数が少なかったことで、Computer Room へ誘導する仕掛けをもう少し工夫すべきであった。

- TR, TM を置いたのは効果的であった。
- デモのみ無料参加者が最初から Computer Room を見学できて何の問題も無かったように思う。

(3 研関係)

(a) デモを「熱心に」見た主要人物

国内: 上林、植村、牧之内、西尾、喜連川、勝野、白井×3、吉野

海外: Reiter, Overbeek, Feldman, Ait-Kaci のところの人、Kifer のところの人、Blachman

(b) テーマ別実施状況、感想

● Kappa-P

KL1 のデバッグが不十分だったため、何度かダウンした。(ただし、ICOT セッション、最終日は問題なし。) もちろんこれは Kappa-P だけの問題ではない。

- 並列 DBMS をやっているところは熱心だった (喜連川、酒井 @ 東芝、…)。
- Kappa-P と Quixote の関係についての質問が何度かあった。
- ECRC の関係 DB で問題となっている問合せを Kappa-P で実行し 比較してくれと依頼された。(6/10 e-mail でデータを受けとった。)

● Quixote

一度の exception を除き順調であった。

- Quixote の重要性を強調する人が多かった。同様の研究をしている人たちは、みな面白いといってくれた。(特に、モジュールと、仮説付き解に興味を持った人が多かった。) また、自然言語処理屋さんも面白がってくれた。
- Quixote が実装されていること自体に対しても感銘を与えていた。使ってみたいとか、UNIX で動くものはないのかという人も何人かいた。
- TRIAL のデモで、HELLIC-II と比較する人が多かった。判例予測に感激している人 (素人?) も多かった。

－ デモの後、どこぞで Quixote の話をしてくれと依頼された。

(4 研関係)

- (a) ブース 9 における G D C C デモンストレーションは、結果として、毎回、かなりの聴衆を集め、成功に終わったと考えて良いと思います。その原因として考えられるのは、(1) デモブースの場所 (2) 動画を利用したことが考えられます。

デモブースの場所については、丁度プロヴィデンス・ホールを一周した聴衆がたまりやすい場所であったこと、電子メールコーナーのとなりで潜在的に聴衆がたまりやすい場所であったことなどが考えられます。

また、デモの際に I R I S を利用してカラー動画を表示したことがそれにさらに輪をかけて集客能力を高めたのではないかと考えています。

T R は「ロボット」と「階層制約」について用意しましたが、どちらも資料を欲しがると聴衆が何人もいて、結構な部数がはけたと思います。

- (b) 質問については、以下の通りです。これは「プログラミング言語」のデモとしては、ある程度宿命なのかもしれませんが、プログラミング言語の機能を応用システムを通じて見せたため、G D C C そのものについての質問は少なく、どの程度伝わったのか、若干不安な点もありました。

- [G D C C について]

Q 1 : ヘロンの公式のように、関係式を与えれば、このシステム (G D C C) は自動的に解いてくれるのか?

- [ハンドリングロボット設計支援システムについて]

Q 2 : このシステムの目的は制御にあるのか? また、制御には使えるのか?

Q 3 : 可操作度とは具体的にはどういう量か?

Q 4 : このデモで用いられたプログラムは何行程度で、もっと複雑なロボットの場合にはどの位になるのか?

- [階層制約について]

Q 5 : O H P とディスプレイとで、実行時間が 5 秒ほど違うのはなぜか?

Q 6 : なぜ 6 4 P E で 1 0 倍程度しか代数効果が出ないのか?

このように、Q 3 を除いては、重要なポイントがうまく伝わらなかったようにも考えられます。

(c) 反省点

- 第一に、やはり1時間というデモ時間はやや長く、最初から最後まで聞いている人が少なかったようで、応用毎にもうすこしセルフコンテンツにする等、シナリオに工夫が必要であったかと考えます。しかし、内容を伝えるためには、あの程度の時間は、ある意味では必要で、そのあたりの我々の研究を伝えようとする意識と、聴衆の気楽に機能を見て帰ろうとする意識とのずれがあったように思います。
- 各デモ担当者は十分に練習はしたのですが、それにもかかわらず、会期中前半は緊張が高く、後半はつかれて、やや聴衆を巻き込む形で説明を行うという点、もの足りなく思いました。
もうすこし聴衆の反応その他に応じた、聴衆との交流のあるデモにできればよかったと考えています。
- 障害時の対応についての打ち合わせが不十分で、対応のための手段がありながら、最初の障害時に活用出来なかったという反省点があります。

(5 研関係)

- (a) お客様はおおむね熱心に、説明を聞いていました。開始時点では客の入りが少なくても説明を続けていくうちにだんだん客が増えていくというのが典型的パターンでした。1,2 日目は専門家の人達(日本人外国人を問わず)が多くおとずれ、技術的な質問が多くありました。
- (b) 質問の内容は、定理証明手法に関するものと並列化手法に関するものに二分されますが、どちらかというと後者のほうが多かったです。質問の主な内容は以下の通りです。
 - モデル生成法を導出原理の用語または高校レベルの数学用語で説明してほしい。
 - モデル生成法と前向き・後向き推論の関係について。
 - ノングランド版 MGTP でも RAMS アルゴリズムを利用しているのか。
 - 並列実行の粒度について
 - どのように負荷分散を行なっているのか。
 - KL1 プログラミングの利点がどのように生かされているのか。
 - 応用プログラムとしてどのようなものがあるのか。

- (c) デモ中はやはり rmonitor とか pmeter に注目がいくようで、熱心に稼働状況を見ていました。色模様に変化があり見ていて飽きないようです。デモ効果としては pmeter のほうが高いようです。
- (d) 初期の段階で見るべき人達は見てしまって、4 日目位になると何かやっているから見ているというながしの見学者がふえました。
- (e) 反省点
開始時刻がお客にとって不明なため、開始時刻には観客はまばらということが結構ありました。英語だと日本人はなかなか近づこうとしない傾向がありました。もう少し日本語版デモを多めにやった方が良かったかも知れません。
- (f) その他
一日目及び二日目の報告でも再三とりあげられ、また評価ワークショップ、パネル等でも海外の研究者から大きな成果の一つとして引用されるなど高い評価をうけました。
また、Overbeek 氏は「お前達はすごいことをやった」と大変な喜びようで、Bibel 氏からは「SETHEO/PATHEO をやってきたが、それをしのいだ」と賛辞をいただきました。なかでも、定理証明研究に失望していた Kowalski 氏や NIH の Feldmann 氏から、「非常に impressive だ」という感想をよせられ、益々意を強くしているところです。

(6 研関係)

- (a) Dulcinea デモの time table が合わず、お客がおおぜい来たときはデモがすでに終わっていたということがあった。
- (b) デモの説明が長過ぎる感があった。
- (c) Dulcinea のデモは装飾に時間を割かなかったため、CAD のデモなどと比べると、デモ効果が悪かった。
- (d) 質問事項としては、以下の質問がありました。
 - 一つの立論ゴールから複数の立論テキストを生成することができるか。
 - 同じテーマに関して異なる立論ゴールを与えたとき、どのように立論テキストを変えて生成しているのか。
 - 英語に適用させるとどのようなになるのか。
 - 関連研究はあるか。

(7 研関係)

- (a) VIP クラスの人で、囲碁をやりたがった方がいらっしゃったのですが、マシンが空いていなくてできないことがありました。また、囲碁の立ち上げができる人をあわてて探す場面が1、2回ありました。
- (b) 法的推論のデモでは、以下のような質問がありました。
- 類推部分の論理的な意味付けはあるのか。
 - 類推の評価の方法をもっと詳しく教えてほしい。
 - いくつも解が出るが、その順位付けはしないのか。
 - 吉野教授（明治学院）との関係はどうなっているのか。
 - TRIAL（3研）との関係はどうなっているのか。
 - 意味ネットのマッチングでは、うまくヒットしない場合が多いのではないか。
 - なぜ法的推論を選んだのか。なぜ刑法を選んだのか。
- (c) 法的推論は事前に「法律家が見学にいらっしゃる」という情報が入って、緊張していたのですが、直接、専門家を名乗る方がいらっしゃらなかったで、どの方がそうなのかわかりませんでした。確認したのは、吉野先生と Carol Hafner 氏だけです。
- (d) 遺伝子、LSI-CAD について、印象に残った質問があったかどうか聞いてみましたが、特には ないようです。
- (e) 7 研関係のデモは（再委託も含めて）
その応用分野の概要と問題点を最初に説明して、以後の説明の全体像を把握してもらう。（細部の説明についていけなくなっても、何を説明しているのかが大体わかるように、ストーリーを明らかにしておく。説明の途中で そのストーリーの中のどこを説明しているかがわかるように各スライドの タイトルを工夫する） ことをお願いしてありました。これは、お客さんに、素人の人も専門家の人も いるからです。どのテーマもおおよそお願いしていたようになっていました。
- (f) 生物で一般の関心を引くのはもう一工夫必要だと感じた。
（専門用語などがわかりにくい。）

(PDS 関係)

- (a) ICOT Free Software について、無償配布については歓迎する声を多く聞きました。しかし、この決定に驚いた人はあまりいなかったようです。むしろ無償配布するのは当然という雰囲気がありました。

- (b) ICOT Free Software について、具体的な配布方法についてもいくつか質問を受けました (anonymous FTP を考えている、と回答)。また、配布後のサポート体制がしっかりとれるのかどうかについて、多くの質問を受けました (未決定としか回答できませんでした)。
- (c) 配布ソフトウェアの多くが PIM または PSI を対象としていることについて、通常の Unix workstation に移植できないのか、という質問を多く受けました。現在考えている Unix 上の処理系についての構想を回答しておきましたが、この方向の努力は必須でしょう。
- (d) フリーソフトウェアのコーナーでは、デモのスケジュールが明示されていなかったため、ひとつのデモが終了すると、次のデモが無いと思われるお客がいなくなってしまうことが多かった。
→ 予定表は手持ち資料にもあったし、空き時間には OHP で表示されていたので、その理由だけではないと思われる。全体を見るために、ひと区切りついたところで立ち上がったのだろう。
- (e) ソフト公開コーナーには、受付があり、個人的に使うマシンがあったのですが、それらの配置が良くなかったのではないのでしょうか。発表者の側には受付とデモに使わないマシンがあり、オペレータは見えない位置にいました。
- (f) デモの順番は、使うマシンが重ならないように決めて欲しかったと思います。A'UM の後に CAL のデモを行ったとき、マシンの準備に十分な時間がない上に操作ミスをしたため、しばらくマシンによる実行を見せられませんでした。
→ 3 日日以降は要望に対応して変更した。
- (g) IFS ブースでソフトウェアの詳細について尋ねられたが、資料に記載の担当がいなくて、対応に手間取った。
→ その場で対応するという手順にはもともとなっていない。
- (h) 外国人はデモ会場にほとんど来なかったように思います。日本人しか聞いていないのに英語でデモをしているところも多くありました。もし理由が分かれば次回 :-) の参考になると思うのですが。
→ 日本人だけを相手に日本語でやっている外国人が素通りしてしまうので、英語でやってほしいということは予め伝えてあるはず。
- (i) 私の予想としては無償公開ソフトウェアのデモは CESP の成果報告会などのデモの形態のように、人が集まって来た時に随時、カジュアルな感じでやるのではないかと思っていた。もしできたならそのような形態でデモを行う日があっても良かったのではないだろうか。

→ 9 件あるので全デモをそうするのは無理だが、テーマによっては空時間に発表者の判断で随時やっていた。

- (j) テーマによってはこの機会をフルに利用して、セッションでの発表の予行演習、個人的な説明、大規模デモと、いろいろ楽しんでいたところもあった。定時の発表の他の空き時間は自由に使ってよいということで、積極的に対応したテーマはいい目を見たことと思う。
- (k) 我々の同業者の Dr. Kahn にデモを見てもらい、その後、いろいろと討議できたのが、我々にとって今回のデモの最大の収穫でした。
- (l) お客の反応に関しては、非常に熱心に質問をしてくれた数人を除いては比較的低調であった。デモの内容が少し専門的すぎたかもしれない。

3. その他

- (a) 会議全般の運営のスムーズさはたいへん高く評価されていました。
- (b) 全般に会議中のセッションではあまり白熱した議論はみられませんでした。ひとつには、会場のフォーマルな雰囲気がそうさせたのではないかと思います。これに比べて、デモ会場の方が熱心な質問をする方が多かったように思います。
- (c) Banquet 参加費の高さはかなり批判されていました。が、出席した人々からは、料理・飲物の質が高額の参加費に見合うものだった、という感想を聞きました。
- (d) 最後にデモ担当者控室が煙草の煙で煙かったとの意見があったことを付け加えおきます。
- (e) Email コーナーには、時々、順番待ちの人や、デモ会場に朝早くきて、セッションが始まるまでの間、報告書等を作成している人がみうけられました。もう少し端末が多くても良かったように思います。
- (f) PIM コーナーの受け付けあたりの空気が、お客が多いときは、淀むというクレームが、受付嬢からでて、ホテルの担当者と交渉して、空調を強くしてもらった場面もありました。
- (g) デモ実施側（応用、サポート）には相当ハードだった。セッションをほとんど聞きに行っていない人も多い模様。
- (h) 短い時間内に見せ場を作るために対象問題が小規模になった傾向があるのではないかと。それが研究開発そのものの方向に影響を与えていないか。

FGCS'92 デモに対する感想 (再委託分)

1. デモに対するお客の反応

- (a) 総じて、興味深くきいていただいたようです。
- (b) 実用化について予定がないとお答えするともったいないといった類いの意見をいただいた。
- (c) 日本人 (等、英語より日本語のほうが耳に入りやすい方) から、日本語でのデモの要望が多かった。
- (d) 英語でデモをやった時、客は少なく質問もあまり出ない。やはり日本語でやると、客が集まり質問も出てくる。
- (e) 座って聞いていた人は、興味を持ってもらえたようで、質問等もよく受けた。
- (f) 会議の性質上、アプリケーションに関心を持つ人が少ない感じであった。
- (g) 前半の説明部分は、あまり理解をえないようであったが、台数効果の実演には、興味をもたれたようだった。
- (h) ペーパーの送付を要求するなど一部の人は強い関心を示した。
- (i) 並列処理よりも知識処理技術に興味を持った人が多いようであった。
- (j) 概ね好評であった。論理式で実際のシステムを書いたことに対する評価が高かったように思われる。実用化に対するコメント、特に、仕様の入力に対する支援についてのコメントや意見が多かった。

2. デモ内容に対するお客の質問

(a) 事例に基づく回路設計支援システム

- 詳細内容、参考文献について知りたい。
- 機能系統木の用意の仕方が問題。機能系統木の作り方は。
- 事例の中身は。
- 最適ブロック選択など最適設計を行うことはできるのか。

(b) モチーフ抽出実験システム

- 質問は、遺伝的アルゴリズムに関わるものが多かった。

(c) 論理アーキテクチャ設計支援システム

- 組合せ最適化の特徴について。
- 知識処理や並列処理の具体的な方法について。
- ハイレベル合成もまだ研究段階にある技術なので、CAD 関連の人から質問された。
- また、本システムのフリーソフトを手に入れたいという来場者がいた。

(d) 階層再帰並列レイアウトシステム:co-HLEX

- 「協調」は、どうやっているのか。
- 並列の粒度は。
- 配線率とは何か。
- 「超並列」との違いは。
- 人手と比べてのレイアウト性能は。
- 「分割」はどうやっているのか。

(e) 協調型論理設計エキスパートシステム:co-LODEX

- PIM, KL1 と論理設計の相性について。
- 制約処理の並列化の効果について。
- 論理設計、NJ(No Good Justification) 等について。

(f) 文脈構造抽出実験システム

- 文脈構造、解析精度について。
- 負荷分散があまりできていないというコメントとそれに対してどうするつもりかという質問。

(g) モデルに基づくプラント制御用エキスパートシステム

- 並列性に関する質問 (リアルタイム性)
- KL1 など論理型言語のメリット (C 等に比べて)
- 知識コンパイルそのものの概念に関する質問
- 原子力発電所への適用は可能かどうか。
- 推論結果が発電制御にとって最適なものかどうか。

(h) 並列協調に基づく自然言語解析実験システム

- 並列協調によって自然言語解析結果の質が向上することがあるか。
- 負荷分散はどのようにやっているのか。

(i) 適応型電子装置診断実験システム

- 学習時に MDL 基準を用いた点が興味深い。

- 階層的にモデル化する方法もあるのではないか。
 - 故障時のモデルは用いないのか。
- (j) 並列プログラム開発支援システム (MENDELS ZONE)
- 自動生成されたプログラムの効率化。
 - 仕様を論理式で全て書くことができるのか。等
- (k) GDCC(Volanoi 図関係)
- お客の反応は少なかった。コメントとして、「もっと良いアルゴリズムを我々は考えだした。」というのがあった。(但し、並列効果は落ちるが)
 - PE 数を 16 以上にした場合、どうなるか。

3. その他

- (a) 各ブースでマイクを使用しており、それがぶつかるため、お客は多少聞き取りにくかったと思う。
- (b) 一部のブースの声(ボリューム)が大きかったため、会場内が全体としてうるさくなってしまった。
- (c) 日本語の OHP も作成しておくべきであった。
- (d) デモの開始時間をきっちり決めてアナウンスしておいた方がよかった。
- (e) 受付で配布していたデモ時間割と実際の時間が一致していないので、とまどっている人が多かった。
- (f) デモの開始時間が不明で、見に来た人はデモを見る順番が決めにくかったと思う。
- (g) デモ時間はもっと短い方が良かったと思う。
- (h) 一つのデモの実演時間(30分)は、お客にとっては長すぎると思う。(全部を見るのに10時間)
- (i) 説明員の練習不足があった。
- (j) お客は各ブースで似たようなことをやっていると思ったのではないだろうか、違いを理解してもらえたらうか。
- (k) ブースの位置があまり良くなかった。(ブース 10)
- (l) デモブースの場所がわかりにくいために客が来ないことがあった。(ブース 10)

- (m) 時間を詰めたスケジューリングだったため、Q/A が長引くと準備があ
わただしかった。

参 考

再委託先からのアンケート（回収分）

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: 事例に基づく回路設計支援システム

会社名: シャーフ

記入者名: 森下 椿 山路 電話番号: 07435-3-5521
ext. 3014

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

- ・ 詳細内容、参考文献について知りたい。
- ・ 機能系システムの形態の仕方が問題。

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

- 参考文献について。
- デモ発表の詳細な内容ののっている論文の情報について。
- 事例の中身は？ ○ 機能系システムの作り方は？
- 最適ブロック選択など最適設計を行うことはできるのか？

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

- 聴衆が日本人ばかりの時、デモ説明は、解説でしかなかった。
- デモの開始時間が不明で、見に来た人はデモを見る順番が決めにくかったと思う。
- デモというより研究発表という色彩が強かった。デモ時間はもっと短い方が良かったと思う。また、常時客が集まればデモするということであったが、デモを開始しないと客は来ないし、開始してから集まって来た客は全容が見られなく訳が分からず途中から離れて行った人もいた。時間を決めて集中的に実施した方が見る役も見せる役も有難かったように思う。

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: 論理アーキテクチャ設計支援システム

会社名: 松下電器産業株式会社

記入者名: 間藤 隆一 電話番号:

044-911-6351

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)
総じて、興味深く聞いて頂いたようです。研究適用会呈(ハイル合成)は理解できたようですが、研究(組合せ最適化問題)の特徴の詳細は具体的に説明もしなかったため、十分理解していませんでした。
海外の来訪者は説明の途中でも不明な点を質問してくるなど興味をもって頂いたと思います。
2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)
組合せ最適化の特徴についての質問があった。知識処理や並列処理の具体的な方法について。
ハイル合成もまだ研究段階にある技術なので、CAD関連の人から質問された。
また、本システムのソフトを手に入れたいという来場者がいた。
3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)
特にありません。

会社名: (株)日立製作所 システム開発研究所

記入者名: 小松 啓子 電話番号: 044(966)7111

内線 3323

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

実用化について、予定がないと お答へすると、もったいない
といった類のご意見を頂いた。ICOT終了後、研究を
どうするのか、海外のお客さんからも聞かれたが、継続
しない旨、お伝えすると "sad" と 言われた。

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

"掃調"は、どうやっているのか?、並列の粒度は?、
配線率とは何か?、"超並列"との違いは?、
人手と比べ7のレイアウト性能は?、"分割"は
どうやっているのか? 等の質問が多かった。

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

マイル4 PSIの調子が、あまり良くなかったが、PIMOS
のスタッフの方々の対応が早く、お客さんに迷惑
かけずに済んで良かった。

時間を詰めたスリジョーリンクだったため、Q&Aが
長引くと、準備が あわたたしかった。

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: 協調型論理設計エキスポートシステム CO-LOGEX

会社名: 富士通 株式会社

記入者名: 箕田 電話番号: 044-754-2665

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

日本人(等、英語より日本語の方が耳に入りやすい方)から、日本語でのデモの要望が多かった。

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

- ・ pin, k&l と論理設計の相性について。
- ・ 制約処理と並列化の効果について。
- ・ 論理設計、NJ 等について。

in sub Jcl-1-11

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

- ・ 受付で配布していた、デモ時間割と実際の時間が一致しないのを指摘する人が多かった。
- ・ 一部のブースの声(ボリューム)が大きいため、会場内が全体としてうるさくなってしまった。
- ・ 一つのデモの実演時間(30分)はお客にとっては長すぎると思う(全部を見るのに10時間!)

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: 文脈構造を由ら実験システム

会社名: 株式会社東芝

記入者名: 何田一男 電話番号: 044(242) 2240

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)
 - ・ 座って聞いていた人には、興味を持ってもらえたようで質問等もよく受けた。
2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)
 - ・ 文脈構造・解析精度について 質問
 - ・ 解析の方法についての不明点の質問
 - ・ 負荷分散があまりできていない、というコメントとそれに対してどうするつもりかという質問
3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)
 - ・ プースの位置があまり良くなかった。

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: モデルに基づくフロント制御用エキスパートシステム

会社名: (株)東芝 システムソフトウェア技術研究所

記入者名: 鈴木淳三 電話番号: 044-548-5461

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

- ・会議の性質上、質問セッションに関心を持った人が少ない 感いであった
→ 逆に、関心のある人は 熱心に聞いて 質問等も多かった。

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

- ・並列性に関する質問 (リアルタイム性)
 - ・KL1 などの論理型言語のメリット (C 等に比べて)
 - ・知識エンジニアリングの概念に関する質問
 - ・原子力発電所への適用は可能かという
 - ・推論結果が 発電所制御にとって最適なものかという
- Feigenbaum からの質問は、ETL の 鈴木 工 からの質問

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

- ・スピーカの位置が 変になって
 ｝ ボリュームを下げると 後の方が良く聞けない。
 ｝ ボリュームを上げると 他のフルスの声と 混乱する

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: 並列協調に基づく自然言語解析実験システム 「Laput

会社名: 富士通

記入者名: 山崎

電話番号: 024-754-2671

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

前半の説明部分は、あまり理解されなかった。
台数効果の実演は、興味を増えたようだった。

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

並列協調による自然言語解析結果の質が向上することがあるか?
負荷分散はどのようにやっているのか?

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

デモブースの場所がわかりにくいため、客が来なかった。

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: 適応型電子装置診断実験システム

会社名: 日本電気(株)

記入者名: 中基

電話番号: 044-856-2258

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

- ・ 学習時に MDL 基準を用いた点が興味深い
- ・ 階層的にモデル化する方法もあるのではないかと。

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

- ・ 故障時のモデルは同じなのか? (答: 計算量が増加するため用いていない。正常モデルのみで診断は可能)

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

並列処理よりも、知識処理技術に興味を持った人が多いようであった。

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: GDCC

会社名: 日 本 電 気 (株)

記入者名: 阪 田 全 弘 電話番号: 03-5476-1085

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

- ・反応は少なかった
- ・コメントとして「イ、マ、ハアルゴリズムも教えるべきだった」というものがあった
(但し、多少結果は 良かった)

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

- ・PE 数も16以上にした場合どうなるか、
- ・ソースが欲しい、

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

モチーフ抽出実験システム (by NEC) の感想

- (1) デモに対するお客の反響、質問
 - ・英語でデモをやった時、客は少なく質問もあまり出ない。
 - ・やはり日本語でやると、客が集まり質問も出てくる。
 - ・ペーパーの送付を要求するなど一部の人は強い関心を示した。
 - ・質問は、遺伝的アルゴリズムに関わるものが多かった。
- (2) 反省点 (十分でなかった点、改善すべき点等)
 - ・各ブースでマイクを使用しており、それがぶつかるため、お客は多少聞きとりにくかったと思う。
 - ・日本語の OHP も作成しておくべきであった。
 - ・デモの開始時間をきっちり決めてアナウンスしておいた方がよかった。
 - ・説明員の練習不足があった。
- (3) その他
 - ・お客は各ブースで似たようなことをやっていると思ったのではないだろうか、違いを理解してもらえたらうか。

FGCS'92 デモ実施に関するアンケート

下記の事項について、記入して下さい。

デモテーマ名: PIM/k

会社名: 東芝

記入者名: 浅野 滋博 電話番号: 044-549-2234

1. デモに対するお客の反応 (お客の意見、コメント等を集約したもの)

- どうしてPIMはS社協力して作るなかったのか? 協力したとするとよかったの1/2.
- デモが(流石か)あてい.
- セッションのあい間でアネックスに来たのでせわしない.
- 商品につながるか? 使ってみたい.

2. デモ内容に対するお客の質問 (主なもののみ)

- 技術的なもの.
 - 写真のビット率やサイズ.
 - バスの制御.
- その他.
 - 何人ぐらいかっているのか? • ICOTの要求はどのくらい?
 - 何回作り直しをしたか?

3. その他 (気付いた点があれば、自由に記入)

アネックス会場は興味がある人だけ来るので質問は熱心であった.

デモ会場に明らかに関係ない(登録していない)と思われる一般のお客さんが入ってきて困った. バッチをつけてないようだし、チェックをしっかりとったほうが良い.

デモアーマ名 :

並列プログラム開発支援システムMENDELS ZONE

会社名 : (株) 東芝 システム・ソフトウェア技術研究所

記入者名 : 荒見美香子

電話番号 : 044-548-5474

1. デモに対するお客の反応

概ね好評であった。論理式で実際のシステムを書いたことに対する評価が高かったように思われる。実用化に対するコメント、特に仕様の入力に対する支援についてのコメントや意見が多かった。

2. デモ内容に対するお客の質問

次頁以降の『質問項目リスト』参照

3. その他

特になし

FGCS'92 質問項目リスト

6 月 1 日 (月)

- ・ C 言語との比較は、実際に作ったものとの比較か？
- ・ KL1 の持つプリミティブな機能を網羅しているのか？
KL1 の全ての機能を使えるのか？
- ・ 生成された KL1 コードのデバッグは可能か？
- ・ 開発工数にはウィンドウの作成等も含まれているのか？
- ・ デバッグの 0.5M は何をしたのか？
- ・ デバッグ後修正を行った場合、仕様との整合性はどうなるのか？
リバースエンジニアリングのようなこともするのか？
- ・ 仕様のレベルでバグが入らないか？
- ・ フリーソフト化は？
- ・ UNIX 上での実現は？
- ・ ベトリネットは何を拡張しているのか？
- ・ オブジェクト間の通信はイベントの通信のみか？

6 月 2 日 (火)

- ・ 実行の赤点滅が同時に起こらないのはなぜ？
- ・ 自動生成されたプログラムの効率？
- ・ 並行というのはオブジェクト単位なのか？オブジェクトの中は？
- ・ 仕様を論理式で書くのは難しくないか？
- ・ 仕様を論理式で全て書くことができるのか？
- ・ MENDELS ZONE で記述するのに向いている対象は？
- ・ タイミング調整を後で行わなければならないのはなぜか？
仕様検証でチェックできるのでは？
- ・ KL1 から拡張ベトリネット表示 (MENDEL ネット表示) できるのか？
- ・ シミュレーションは KL1 コードの実行と対応しているのか？
- ・ 等式論理でタイミングは書けないのか？
- ・ 各オブジェクトは KL1 へ変換された後どのように結合していくのか？
- ・ 対象のプラント制御は普通 C では記述しないが、どんなシステムを対象としているのか？
- ・ どういう Theorem Prover を使っているのか？
- ・ マルチ P S I 上でしか動かないのか？
- ・ MENDELS ZONE のソフトを入手できるのか？
- ・ 変換によってプログラム量はどのくらい増えるのか？ それはなぜか？
- ・ 代数仕様の記述能力は？
- ・ adjustment フェーズでは KL1 プログラムを作っているのか？
- ・ 等式論理で書かれた仕様の内容を具体的に教えて欲しい。
- ・ 各オブジェクトは何をするオブジェクトなのか？

- ・具体的にはどのような振る舞いをするのか？
- ・シミュレータを持っているのか？
- ・プラントの動きをシミュレートしているのか？
- ・マルチP S I 上で作成されたプログラムは動くのか？
- ・Concurrencyを持つマシンであれば変換して動かすことができるのか？
- ・WENDELS ZONEはK L 1 上にインプリメントされているのか？
- ・グラフィックにプログラムを作成できるのか
- ・トップレベルでの黒い四角は何か？
- ・時相論理の記述例を教えて欲しい。
- ・タイマーオブジェクトとは何をするオブジェクトか？
- ・タイマーオブジェクトのコードを見せて欲しい。
- ・ここでいうオブジェクトはオブジェクト指向で言うオブジェクトと同じなのか？
- ・ベトリネットベースにした理由は？
- ・等式論理で仕様を書くのは書きやすいか？
- ・等式論理で並列プログラムは記述しにくいのではないか？
- ・フリーソフトウェアにはなるのか？
- ・プラントの話は現実的であるが、実際に適用はしているのか？
- ・セッションでの発表はあるのか？

6 月 3 日 (水)

- ・開発時間の評価は一般的な話か？ワーストケースか？
- ・タイミング制約を2 回行わなければならないのはなぜか？
- ・全てをベトリネットで記述するのか？
- ・定理証明アルゴリズムは何を使っているのか？
- ・並列可を行った部分はどの部分か？
- ・記述量はどのようにしてはかったのか？
- ・どんな論理で仕様を記述するのか？
- ・定理や制約を与える部分のインタフェースはどういう支援を行うのか？
- ・一般的な言語への適用は？
- ・これはまだデモ用の例か？ あるいは実用に耐える本物を書いたのか
- ・並列に適した問題分野は？ 応用対象は？
- ・若い人が多いが、I C O T の人間か？
- ・時相論理で全て書くのは大変ではないか？
- ・実際にユーザが書くのは何か？
- ・デッドロックが起こらないということを時相論理で書けるのか？
- ・実際のプラントシステム（大規模なもの）は本当に代数仕様で書けるのか？
- ・代数仕様が世間一般で使われているのか？
- ・時相論理でタイミングを書くよりもベトリネットの方が書き易いのでは？
- ・できたプログラムの実行効率は？
- ・検証項目はどうやって採すのか？

- ・仕様の記述盤には検証項目も含むのか？
- ・ベトリネットの拡張はどのように行っているのか？
- ・KL1の拡張はどのように行っているのか？
- ・時相論理は具体的にはどのような記述ができるのか？
- ・新聞の『正しいプログラム』というのはどういうことか？
- ・他にどんな例題があるのか？ 応用対象は？
- ・KL1はマルチPSIの他にどんな所で動くのか？
- ・MENDELS ZONEは何の言語で書かれているのか？
- ・MENDELS ZONEのソースプログラムサイズは？
- ・C言語との比較を行っているが、その開発環境は？
- ・MENDELS ZONEはどういう環境で動くのか？
- ・実用化ではどんなマシンで？
- ・通信コストを明示的に記述できないか？
- ・並列度を上げるためのチューニングはどうやって行うのか？
- ・例外処理等の細かい制約を多く使うKL1の開発に使えそうですね。
- ・効率を上げるための制約は時相論理で書けるのか？
- ・ハードウェア記述言語のように直接時間は入れられないのか？
- ・コーディングの時間が逆に増えているのはなぜか？
- ・デバッグ時間が減っている要因は？
- ・記述対象のシステムは？
- ・実際の製品としてのものの開発工数は？特にデバッグは？
- ・時相論理と等式論理を別々に書くのはなぜか？
- ・新聞の『虫なし』というのはどういうことか？

6月4日（木）

- ・Cのグラフはなぜ数値が記入されていないのか？
- ・本当に開発したのか？
- ・adjustmentは端的に言うとなんを何をしているのか？
- ・sequentialな部分の割合は？
- ・sequentialな部分がボトルネックになることはないのか？
- ・オブジェクト指向なのか？
- ・検証でエラーが発見された時、その原因はすぐに見つかるのか？
- ・高レベルベトリネットとは？
- ・時相論理による部分をベトリネットで直接書けるか？
- ・OS等はMENDELS ZONEで書けるのか？
- ・どうしてベトリネットができるのか？
- ・どこでベトリネットを書くのか？
- ・コーディングの時間が従来と比べて増えているのはなぜか？
- ・オブジェクト間の制約は人が手で記述するのか？
- ・検証のための項目と仕様の区別は？

- ・コーディング時間には何が含まれているのか？
- ・CとKL1の比較は一般的な比較か？
- ・実際に等式で書くのは難しいのでは？
- ・KL1で直接書いた場合とMENDELS ZONEを用いた場合と並列性の善し悪しは？
- ・生成されたKL1プログラムの実行効率？
- ・検証の限界は？
- ・検証が止まらないことはあるのか？
- ・仕様を上手に書かなければならないのか？
- ・等式論理と時相論理をどのように組み合わせているのか？
- ・orderingの方式は何？
- ・KL1は等式から得ているのか、書換規則から得ているのか？
- ・本当のシステムの制約を時相論理で書けるのか？
- ・こういったタイミングに関する制約が書けるのか？

6月5日（金）

- ・ベトリネットとオブジェクトの関係は？
- ・KL1はオブジェクト指向に適しているのか？
- ・時相論理でどうやってベトリネットを調整しているのか？
- ・時相論理でどうやって制約を書くのか？
- ・時相論理でどんなことが書けるのか？
- ・パフォーマンスメーターは何を意味しているのか？
- ・並列にした場合の効果は？
- ・検証項目の網羅性は？
- ・検証項目をガイドラインとして与える方法などがあるのでは？
- ・検証項目を十分に与えられなかった時、後のフェーズへの影響は？
- ・後のフェーズに後戻りできるのか？
- ・できたプログラムの実行効率？
- ・オブジェクトの切り出し単位は？
- ・工数に置いてどんな所が一番時間がかかるのか？
- ・CPUの数が制限されている時の最適化処理は検討していないのか？
- ・評価（記述量）の仕様には何が含まれているのか？
- ・ベトリネット部も記述量にカウントすれば増えるのでは？
- ・MENDELS ZONEで開発した場合、開発ドキュメントは不要になるのか？
- ・ここでいう自動プログラミングとは何を指すのか？